

## 40 神奈川県 横浜市

### しもやもと 下谷本せせらぎ緑道

水源	導水方法	導水箇所	水環境上の問題
公園の池	新設管路 自然流下	河川・水路	水質悪化・悪臭 親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



#### 対象地域の概要

##### ・地域の概要

横浜市は、15の政令指定都市のひとつで、神奈川県の東部に位置し、県内で最も大きい市です。区制が施行され5区に分かれたのが1927年で、分区を経て現在横浜市は18の区があります。

平成19年3月1日現在で、人口総数は360万7,125人、世帯数は150万9,031世帯となりました。前月比では人口は223人、世帯数は942世帯増加しました。（横浜市ホームページより）

##### ・対象水域の概要

対象となる水路は東急田園都市線の藤ヶ丘駅と市ヶ尾駅の間地点に位置し、小学校や現在計画中の大規模な公園（谷本公園）など、人の流れが比較的多く、今後もそういった状況が続くことが期待される状況にあります。

平成14年頃の下水幹線（φ2,000mm）の埋設により流入量の少ない水路となり、不法投棄や悪臭といった問題も発生しました。水路の水源であった雨水の流入が大幅に減少したことによる問題の発生との認識です。

住民からの陳情があり、改善のための施策を実施する必要性がありました。住民からは水路を埋め、周辺環境にあわせた整備をしてほしいと要望がありました。平成15年にはすでに一部の工事が着工しているため、それほど時間はかかっていません。



対象地域の概要	<p>・水環境上の問題：水質悪化・悪臭 生態系悪影響 親水性・景観</p> <p>平成14年頃の下水幹線(φ2,000mm)の埋設により従前の水路に流入する水量が大幅に減少し、悪臭が発生したことや、従来からの不法投棄の問題もある等、環境として好ましくない状況となっていました。</p> <p>そこで対象地の環境を改善するために、何らかの対策を講じる必要がありました。</p>
目標	<p>・目標像 横浜市環境管理計画の「水域の水環境目標」に基づき整備しています。</p> <p>・目標値 横浜市環境管理計画の「水域の水環境目標」に基づき整備しています。</p>
導水開始	平成18年10月
水源	<p>・水源 藤が丘公園内の池の水を利用します。この水はポンプによって地下水を導水したものです。</p> <p>・理由 現在は池からの越流はすべて下水道へ流入してしまいます。この水を有効利用することにしました。</p> <p>・他の水源 他に可能性のある水源：雨水、池</p>

導水量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導水量 最低でも2L/s (172.8m<sup>3</sup>/day)</li> <li>・理由 天候によって異なりますが、現状で藤が丘公園内の池から下水への流入量がおおむね 2L/s 程度であることから、最低でもこの程度の水量は確保できると思われます。</li> </ul>
方導法水	かつての雨水排水路内に導水管を設置し、水位差を利用してせせらぎ最上流部で湧水が湧き出しているかのように導水します。
施設諸元	新規設備：導水管 既存設備：下水幹線及び下水枝線 導水距離：約1000m 概要：既設下水管渠からの切り替え工事によって、池の水を導水します。
状運況用	天候によって異なりますが、現状で藤が丘池から下水への流入量がおおむね 2L/s 程度であることから、最低でもこの程度の水量は確保できると思われます。
と関係の調整主体者	整備後、活動の中心となる小学校の生徒さんたちとワークショップを行うに当たり、区役所と調整を行っております。
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導水事業 事業途中であるため、効果は不明です。(平成19年3月供用開始予定)</li> <li>・事業全体 導水工事が完了した時点で、ワークショップのなかで通水式を行ない、小学校の生徒さんや地域住民からは完成にむけての期待が高まった。</li> </ul>
課題 ・ 今整備の 時	整備後、ワークショップに参加した小学生をはじめ、地域住民が活動の場として将来にわたり利用してもらえるか。
き注 事目 項す べ	既設下水管渠からの切り替え工事によって、池の水を導水します。
リ及資 ンび料 グヒ提 先ア供	横浜市環境創造局環境政策課：045-671-2891